

## バイオスタウン構想分析DB

[【リンク】三浦市バイオスタウン構想](#)

公表回	公表年月日	構想見直し		都道府県名	市町村名	人口	面積
		公表回	公表年月日			(人)	(km <sup>2</sup> )
2	2005.3.30			神奈川県	三浦市	50,365	31.44
構想の要約		まちの重要な産業である水産業から出る水産加工残渣のほか、汚泥、生し尿等及び農作物残渣をメタン発酵施設で発酵させ、エネルギー利用を行うとともに、農産物残渣を利用した堆肥化などを推進する。					
構想に盛り込まれた事業		【資源循環型エネルギーセンター事業】 ▶メタン発酵施設▶ 水処理施設▶ 堆肥化施設 【堆肥化推進事業】 ▶ 堆肥化サテライト施設					
バイオマス利活用目標				添付別紙参照			
バイオスタウン構想概要図				添付別紙参照			

利用するバイオマス					
廃棄物系バイオマス		未利用バイオマス		資源作物	
家畜排せつ物		稲わら・もみがらなど		資源作物	
農業系廃棄物(廃菌床など)		野菜等非食部	○		
食品廃棄物		間伐材・林地残材			
廃食用油		果樹剪定枝			
水産加工残さ	○	竹材			
製材工場等残材		その他(                    )			
建設発生木材					
街路樹・公園・家庭剪定枝、刈草					
古紙・廃棄紙					
下水汚泥など	○				
その他(                    )					

利用するバイオマス変換技術			
マテリアル利用のための変換技術		エネルギー利用のための変換技術	
堆肥化(土壌改良材・肥料を含む)	○	バイオガス化(メタン発酵)	○
飼料化	○	直接燃焼	
バイオマスプラスチック製造		ガス化	
その他(セメント)		炭化	
		固形燃料化(チップ・ペレット・RDFなど)	
		バイオディーゼル燃料化	
		バイオエタノール化	
		その他(                    )	

バイオスタウン実現に向けた取組の進捗状況	
記入年月日	記事
2010.07.27	農村振興局助成措置:平成18年度一、三浦市、三浦地域資源ユーズ株式会社、水産加工残さ、水産加工洗浄排水、農作物収穫残さ等メタン発酵施設等の整備

実現した事業	添付別紙参照
--------	--------

## バイオマス利活用目標

(バイオマスタウン構想書からコピー)

### (1) 利活用目標

#### ① 廃棄物系バイオマスの利用率83%

- ▶ 水産加工残渣(域内)=100%利用
- ▶ 水産加工洗浄排水=100%利用
- ▶ 汚泥(公共下水道)=100%利用
- ▶ 浄化槽汚泥=100%利用
- ▶ 生し尿=100%利用
- ▶ 生ゴミ(一般ゴミ)=0%
- ▶ 枝木・草葉類=0%

なお、今後水産加工団地成立後は、賦存量・利用量ともに増加の見込みがあり、バイオマス利用率90%を目指す。

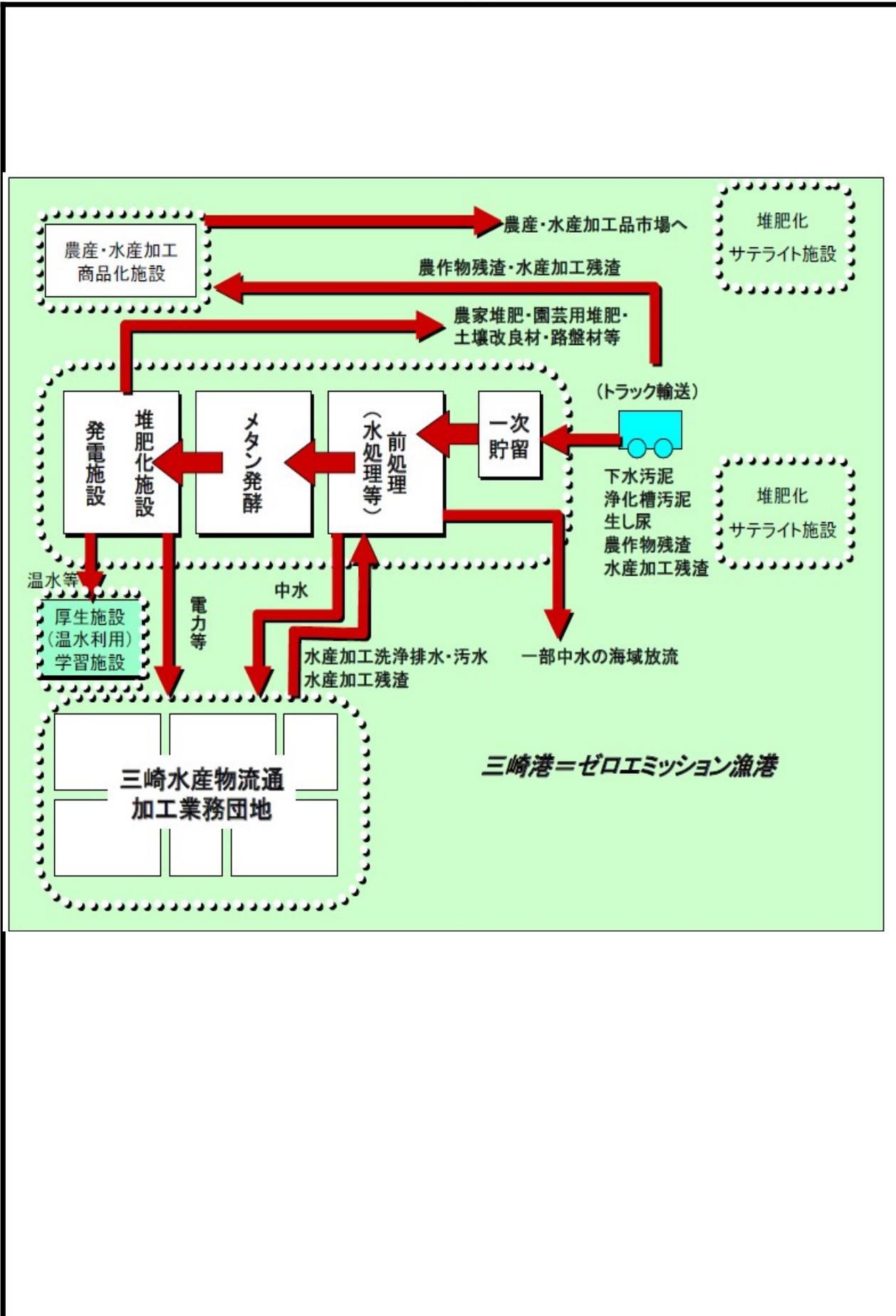
#### ② 未利用バイオマスの利用率96%

- ▶ 農作物残渣=96%

(三浦ブランド野菜として知られるダイコン・キャベツ・スイカの残渣の100%を利用することにより、賦存量総量の96%となる)

# バイオスタウン構想概要図

(バイオスタウン構想書からコピー)



### 実現した事業(その1)

事業の名称	メタン発酵事業(計画中)
事業者名	三浦地域資源ユーズ(株)
事業所名	三浦バイオマスセンター(仮称)
住所(施設の所在地)	
利用するバイオマス	水産加工残さ、下水汚泥、農作物残さ
利用する変換技術	メタン発酵、たい肥化

事業の概要	添付別紙(パンフレット等)参照
	(事業形態、事業構成メンバー、出資比率、事業開始時期、施設の概要、プラントメーカー、建設業者、イニシャルコスト、ランニングコスト、原料単価、製品単価、経営状況、事業運営の課題、成功・失敗要因など記入)
	添付農林水産省作成資料「バイオマス利活用の取組事例」参照。

エ 神奈川県三浦市（計画中）

都道府県名	神奈川県	市町村名	三浦市
市町村人口	4万9793人	市町村面積	32.28 km <sup>2</sup>
主要施設の名称	三浦バイオマスセンター (仮称)	実施主体名	三浦地域資源ユーズ㈱
原材料 (利用量 賦存量)	<p>水産加工残さ、下水汚泥、農作物残さ</p> <p>利用計画量：水産加工残さ 183 t/年、汚泥（公共下水道外）1,424 t/年、生し尿 6,529 m<sup>3</sup>/年、浄化槽汚泥 17,086 m<sup>3</sup>/年、水産加工洗浄排水 146,000 m<sup>3</sup>/年、農作物収穫残さ 7,300 t/年</p> <p>賦存量：水産加工残さ 4,900 t/年、汚泥（公共下水道）921t/年、生し尿 7,270 t/年、浄化槽汚泥 15,202 t/年、水産加工洗浄排水 28,835 t/年、農作物収穫残さ 81,177 t/年 (平成15年度実績値)</p>		
変換技術 (生産量)	<p>メタン発酵、たい肥</p> <p>バイオガス：約1,000Nm<sup>3</sup>/日（メタンガス約60%）（計画量）</p>		
取組の目的 ／背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中核産業のまぐろ漁業経済の長期低落傾向、他産業との競合に苦しむ路地野菜産地、観光来客数の減少など厳しい状況が続いており、効果的な地域活性化策の必要性が高まった。</li> <li>・昭和46・47年度建設の市衛生センター（し尿と浄化槽汚濁処理施設）が老朽化していた。</li> </ul>		
取り組むきっかけとなった課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスタウン構想において、構想の条件となる解決すべき行政課題として、次のとおり整理している。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 三崎水産物流通加工業務団地の汚水排水処理</li> <li>② 老朽化した衛生センターの機能更新</li> <li>③ 農作物残さの放置縮減</li> <li>④ 公共下水道汚泥の処理コスト縮減</li> <li>⑤ 事業所立地を促すため安価な電力供給</li> </ol>		
実績 (計画段階のものは計画値を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス資源（水産加工残さ、水産加工洗浄排水、生し尿・浄化槽汚泥、農作物収穫残さ）を破砕・不適物除去（前処理）後にメタン発酵設備にてバイオガスを生産し、場内へエネルギー（発電、熱）利用する。消化汚泥は汚泥（公共下水道外）とともに、たい肥化し農地還元する。</li> <li>・イニシャル費用は約18億円</li> </ul> <p>[施設の計画概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処理方式：中温発酵方式（約35℃）</li> <li>・発酵槽：円筒型、無動力かくはん式</li> <li>・排水処理方法：生物処理後海域放流、場内洗浄水として有効利用</li> </ul>		

<p>事業を進める上での課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業として、公共性の高いし尿等の処理を行う資源循環事業である。公益性を確保するために地域再生計画、バイオマス・ニッポン総合戦略の具現化を目的とする株式会社を官民協働で平成18年7月に設立し、当該株式会社が三浦浦バイオマスセンター（仮称）の整備を行っている。</li> <li>・当センターは、三浦地域資源ユーズ株がプロポーザルにより、事業者選定を行ったが、プロポーザルにおいて、①環境負荷の低減、②安心・安全で安定した施設の稼働、③リサイクルの推進、④周辺環境との調和、⑤地域との連携と融和、⑥ライフサイクルコストの削減を重視した。</li> </ul>
<p>維持管理体制 （維持管理費の実績）</p>	<p>・事業運営スキーム</p>
<p>直面した課題を解決し</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容と事業スキームが、先駆的であるため、従来の取組を踏襲することが困難な課題に数多く直面しているが、行政内部の縦横断的な連携と行政機関の</li> </ul>

た工夫	協力、そして何よりも民間との協働により事業を進めているところである。	
取組により得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「取り組むきっかけとなった課題」に記載されている5つの行政課題の解決が図られることはもちろんのこと、三浦市の知名度の向上、マグロの集荷能力、漁業関連従業者や農産品への注目度の増加等地域経済振興効果が見込まれる。</li> </ul>	
課題／展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、地域において利用が一般的でない汚泥由来のたい肥を生産する計画であるが、良質なたい肥を安定的に生産、供給する体制を確保することにより、地域農業者の十分な需要を喚起することが必要となっている。</li> <li>・これが具現化することによって資源循環型農業の推進が図られ、バイオマスタウン構想に掲げるたい肥化サテライト施設の整備など次のステップに進む基礎が確立されものと考えられる。</li> </ul>	
その他		
連絡先	電話番号：046-882-1111（内342）	FAX 番号：046-881-3460
	所属部署：経済振興部もてなし総務室	e-mail:soumu02@city.miura.kanagawa.jp